

## スマートシティの実現に向けた技術提案書

様式1

提出年月日： 2020 年 1 月 22 日

提案団体名： VANTIQ株式会社 (複数団体による提案も可とします)

## ○提案内容

(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等 ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください	
技術の概要・実績等	技術の分野
VANTIQは、EDA(Event Driven Architecture)技術を使ったリアルタイムアプリケーションの開発実行プラットフォームです。従来のデータレイクにデータを溜めるIoTプラットフォームではなく、予め予約した事象(イベント)が発生した時にアクションするアプリケーションの開発実行プラットフォームです。VANTIQは、そのイベントの複合化を得意としており、複雑なリアルタイムアプリケーションを実現できます。複数のパートナーが取り扱いを開始し、大手通信会社のIoTプラットフォームのミドルウェアとしても採用されています。https://vantiq.co.jp/	(5)(6)
(2) (1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ ※課題については、別紙の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください	
解決する課題のイメージ	課題の分類
複数のダイナミックに変化する環境の中で発生するイベントを複合化できます。これによって実現できる都市・地域のアプリケーションの例としては、①車椅子が信号を渡ろうとした時、渡り終わるまで青にする②エレベーター呼び出しボタンを、待っている人が去ったらキャンセルする③災害発生時に、発生場所と避難する人の位置、環境情報などを加味して避難誘導する④デジタルサイネージの前に立つ人の属性で表示内容を選ぶ、などです。これらのダイナミックイベント処理を複合化してより複雑な都市機能を実現します。	(シ)
(3) その他	
スマートシティは関係する事業者が多すぎてデータベースの共有が困難です。イベントの共有であれば、一つのイベント発生を元に個々のシステムが個別に動作を開始するといった連携が可能です。イベントをどこから入手しているかを共有するカタログさえあれば、個々のアプリケーションが一つのデータベース(スキーマ)を共有する必要はありません。	

※(1)(2)について、複数ある場合は項目毎に対応の記載をお願いします。

※既に構想中、実施中のプロジェクトがある場合は、別途そのプロジェクト単独での提案も可能です。

## ○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
代表取締役社長	川北 潤	090-5342-8787	kawakita@vantiq.com